

「水機構ニュース」では、水資源機構からの最新ニュースを中心に、水にまつわるさまざまな情報をお届けします。

筑後川  
水系

●大山ダム管理所 (大分県)  
大山ダムに『進撃の巨人』像が完成！



(左から) アルミン、エレン、ミカサの銅像

像は少年期のエレン、幼なじみのミカサとアルミンの3人が大山ダムの堤体を見上げる姿になっており、ダムを壁に見立て、はじめて巨人を目の当たりにした場面を再現しています。この企画は、『進撃の巨人』連載10周年記念プロジェクトとして、地元の方々が集まりクラウドファンディングで資金を募った銅像プロジェクトの第一弾。今後は人気キャラクター、リヴァイ兵長の像がJR日田駅前に設置される予定だそうです。進撃を続ける日田から目が離せません！

人気マンガ『進撃の巨人』に登場する主要キャラクター3人の等身大銅像が、大分県日田市大山町の大山ダム下流広場に完成し、銅像除幕式が令和2年11月8日に開催されました。除幕式は、感染症予防対策を十分に行ったうえで、大山町のご出身である作者の諫山創先生、大分県知事、日市長等の来賓を招いた盛大なものとなりました。

『進撃の巨人』は、人間を捕食する巨人との壮絶な戦いを描いた作品です。物語は、巨人がいる外界と人の居住区を隔ててきた高さ50メートルの壁が、それを上回る超大型巨人に壊されるところから始まります。

プロジェクト『進撃の巨人 in HITA ~進撃の日田~』の詳細はこちらから▶



“壁”を見上げる3人



除幕式時にいただいた記念のオリジナルグッズ  
このほか、諫山先生直筆のサイン色紙もいただきました…！  
ありがとうございます！！

「水の恵みカード」配布開始！

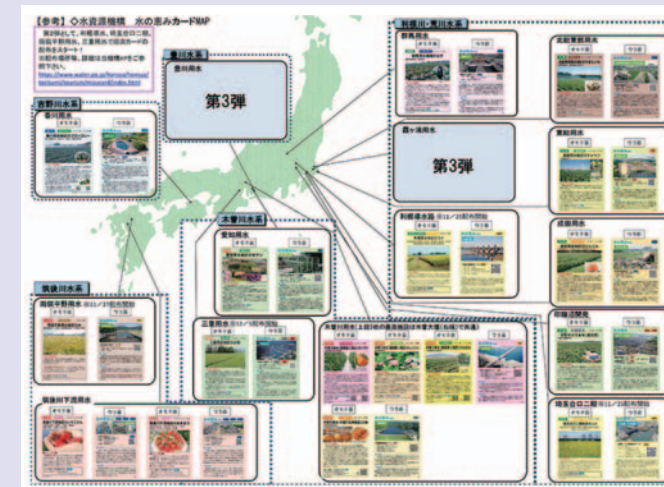
◎水の恵みカードとは

水資源機構では、水路等の機構施設が地域に果たしている役割や重要性をより多くの方々に知っていただくため、令和2年11月9日から「水の恵みカード」を各施設の管理所や関係土地改良区等にて配布を開始しました。

「水の恵みカード」は、農林水産省が進めている取組で、地域の農産物と農業水利施設（水の恵み施設）のことをわかりやすく紹介する簡易版パンフレットです。

カードは、サンプルにあるように表面にその地域の農産物の紹介が、裏面にそれぞれの用水における主要な施設の写真と事業の歴史などが記載されています。

カードは、原則として配布場所への来訪者1名に対して1枚を配布します。



「水の恵みカード」サンプル(群馬用水の例)

◎カードの配布

当機構では「水の恵みカード」は農業用水を供給している全国の水路系事務所において作成することとしており、第一弾として令和2年11月から9箇所の水路施設で13種類のカードを配布しています。また、今後も第二弾、第三弾としてカード作成を予定しています。カード配布場所やカードの見方等の詳細については当機構ホームページをご参照ください。

水資源機構ホームページ 水の恵みカードアドレス：

<https://www.water.go.jp/honsya/honsya/torikumi/tourism/mizucard/index.html>

なお、新型コロナウイルス感染症対策（マスクの着用等）へのご理解とご協力をお願いします。



令和元事業年度業務実績評価 ~初の全体評定 A 評定~

独立行政法人水資源機構は、独立行政法人通則法の規定に基づき、毎事業年度の終了後、当該事業年度に係る業務の実績等について、主務大臣の評価を受けています。

令和元事業年度における評価は、「法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる」とされ、現行評価制度のもと、当機構として初めて全体評定においてA評定を受けました。

今回の評価にあたっては、筑後川水系や豊川水系におけるきめ細やかな取水配水操作や機構が培ってきた合意形成ノウハウを駆使した漏水調整対応のほか、災害の激甚化が問題となるなかで、下久保ダムや草木ダムで実施した過去最大級の出水における的確な洪水調節、漏水時における給水支援活動をはじめとした他機関支援等について高い評価を受けたものです。

今後とも「安全で良質な水を安定して安くお届けする」という機構の社会的使命を果たすべく、引き続き関係する行政機関や利水者の方々と協力しながら職員一丸となって業務を遂行して参ります。

利根川  
水系

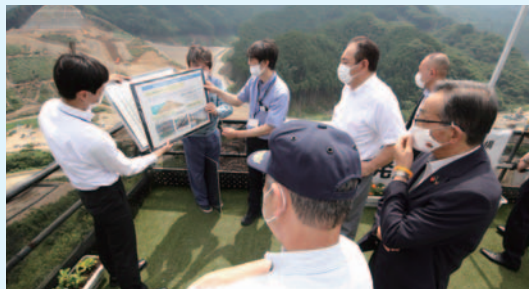
● 思川開発建設所（栃木県）

御法川国土交通副大臣が思川開発事業（南摩ダム建設予定地）を視察されました

令和2年7月20日、御法川みのりかわのぶひで信英国土交通副大臣(当時)が、南摩ダム建設予定地を視察されました。

当日は、渡良瀬遊水地を視察されたのち、栃木県鹿沼市の南摩ダム建設予定地にお越しいただき、ダムサイト展望広場において、現在施工中の南摩ダム敷地造成工事の状況をご覧いただきながら、思川開発事業の目的や進捗状況等についてご説明しました。

副大臣からは、ダムを活用した観光振興について、鹿沼市と連携して推進して欲しいとのお言葉をいただきました。



現場を視察する御法川国土交通副大臣(左から4人目)

4月の研修中止を経て…  
新規採用職員施設見学会開催

令和2年9月8日、総合技術センター（埼玉県）にて、関東管内に配属された令和2年度新規採用職員が一同に会した施設見学会を開催しました。4月に予定していた入社式と研修が新型コロナウイルスの影響で中止となったため、約半年を経て同期がようやく顔を合わせる機会となりました。施設見学会では総合技術センターの実験施設などを見学したほか、その後の座談会では金尾理事長も加わり、入社後のお互いの仕事の近況などを語り合いました。「次は大変な防災の現場を経験したい」など、コロナ禍でも仕事に対する前向きな姿勢が感じられました。

一方の関西管内では、川上ダムで見学会が開催されました。いまだ全員で顔を合わせていない今年度の新規採用職員ですが、半年の配属を経て、皆頼もしい顔つきをしていたのが印象的でした。



関東・施設見学会(総合技術センター)



関西・施設見学会(川上ダム)

読者の声

読者の皆様から寄せられた  
「水とともに」2020・秋号へ  
のご意見・ご感想を紹介します。

秋号らしく表紙と特集の写真は良かったです。今後、各ダムの紅葉の写真を掲載する企画はどうでしょうか？桜バージョンもキレイそうですね～  
(50代・女性)

青蓮寺や早明浦、武蔵水路は機構を代表する施設だと思いますが、その歴史や施設の今後の有効活用に関して知ることができ大変興味深かったです。  
(10代・男性)

P21の「異常洪水時の『緊急効果音』を導入」のNewsは大変ためになりました。自然災害の被害が多発している近年、多くの人々に周知されるべき記事であると思われるので、さらなる広報の充実を望みます。  
(50代・男性)

去年までの広報誌の中にあった、職員の方や仕事の内容を紹介するコーナーを密かに楽しみにしていたので復活して欲しいです！  
(10代・男性)

第35回水とのふれあいフォトコンテスト入選「SUPで乾杯」、最近しばしば耳にするが、SUPがどのようなスポーツなのかわからない。水と関係する競技、ウォータースポーツの記事を連載に加えてはどうだろう。  
(40代・男性)